



休み時間、次の授業が始まるまで図書館で過ごすようになった男子生徒がいます。破れている本を直すのを手伝ってくれたり、英語版の NARUTO の漫画を見て「この話しは面白い」と感想を教えてくれたり、前の授業時間に私に思いっきり叱られた時は目にいっぱい涙を溜めて無言で本を読んでいた時もありました。彼はミチャールといい現在 6 年生です。放送係で図書館内に設置された放送機器から授業の始まりと終わりを告げる大切な役割を担当しています。この放送機器が設置される 1,2 年前はベルで校内を廻り知らせていたので、図書館は放送局の役割もしている建物となりました。そのミチャールが放送係の仕事を終えた後に折り紙の作品を見せてくれました。※動画参照 私は、その作品を見る前に折り紙の本を棚に片づけたばかりでした。(何回注意しても出しっぱなし。ガーナも日本の子どもも変わらない。) そんな思いで片づけたばかりの本を彼は取り出したのです。「トシコに見せたかったんだ。これ見て。」とモーターボートのページを開きました。モーターボート以外にもミチャールはたくさん折っていました。「トシコ、どうして泣いているの？」彼の問いに「嬉しくて泣いているの。」と答えると「ぼくもハッピーなんだよ。トシコがそろばん教えてくれて計算がわかるようになって、こうしてたくさん本を置いてくれているからぼくはすごくハッピーなんだよ。」と笑顔で言いました。最初、「トシコ、ペーパーブック」と言い、本を棚から出した時(どうして片づけないの?)と出かかった言葉を飲み込みました。ノートを破り丁寧に正方形を作り折られた作品と一緒に折り紙の本があり、それは私に見せるためのものだったのです。この図書館プロジェクトの願い(あなたの未来はたくさん本を読むことで創られる)の未来の意味するものは、小さな未来が明日であって、その明日またこの図書館で本を見て、そのまた明日また本を見てと未来が繋がっているのだなと、このプロジェクトはけっして間違っていないのだなと、ミチャールの言葉と作品に励まされました。数年後の未来に向かって明日という未来がある。子どもたちの日々の小さな未来がとても大切ということを私たち大人は忘れてはいけません。

図書館建設サポーター 一般社団法人ギブアウェイ様

プロジェクトサポーター KAWASHO FOODS (GULF) FZE 様

フェリシモ基金事務局様 矢東タイヤ様

